

\*丹波篠山市内6カ所に調査定点を設置しています。

## 【生育】(令和7年8月22日 丹波篠山市定点調査結果より)

	主茎長(cm)	主茎節数(節)
令和7年	72.8	18.9
平年(過去10カ年平均)	68.4	17.7
平年比	107%	107%
令和6年(参考)	71.4	19.1

- ・定点ほ場6カ所の主茎長と主茎節数は平年(過去10カ年平均)比ともに107%であり、平年より早い生育となっています。また、主茎長は前年比102%、主茎節数は99%と同様に推移しています。
- ・梅雨明け後は、高温少雨・多照傾向で推移し、やや生育が停滞していましたが、8月以降の定期的な降雨によって、平年より早い生育となっています。

## 【病害虫】(令和7年8月22日丹波篠山市定点調査結果より)

	立枯性病害	ウイルス病	ハスモンヨトウ	カメムシ類	アブラムシ類	ハダニ類
	株率(%)	株率(%)	虫数/株	虫数/株	頭/小葉	頭/小葉
令和7年	2.00	0.83	0.00	0.05	0.00	0.00
平年(過去10カ年平均)	2.97	6.00	0.15	0.03	0.01	0.38
平年比	67%	14%	0%	156%	0%	0%
令和6年(参考値)	0.00	2.50	0.05	0.03	0.00	0.11

- ・立枯性病害(茎疫病、白絹病など)の発生は平年より少ないですが一部のほ場でみられます。
- ・その他の病害では、ウイルス病、べと病の発生が一部のほ場でみられます。
- ・カメムシ類の発生やハダニ、フタスジヒメハムシの被害が一部のほ場でみられます。
- ・ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺数は、平年と同様に増加傾向で推移しています。一部の地域では、1週間の誘引数が100頭を超えていますので定期的な防除を心がけてください。

## 【今後の対策】

### 1 適期かん水

- ・近畿地方の向こう3カ月予報として、9月以降も高い気温が続く一方、降水量は近畿太平洋側で平年並または多い確率です。裂皮粒の発生を軽減するため、土壌が乾燥する日が続く場合はかん水アラート情報等を参考にかん水を実施してください。

## 2 排水管理

- ・停滞水がある場合は、排水溝や排水口の整備を行い、早急にはほ場の排水を図ってください。  
(湿害や茎疫病等の立枯性病害の対策)



## 3 立枯性病害（茎疫病）対策

- ・茎疫病など立枯性病害が発生した場合は、発病株を早急に抜き取り、抜き取った株は、ほ場外に持ち出して処分しましょう。
- ・今後、茎疫病の発生拡大が懸念されます。予防防除を主体に、定期防除に努め、薬剤が株元に十分かかるように心がけましょう。

## 4 害虫対策

- ① 平年に比べて発生が少ない状況ですが、ほ場によって発生程度に差が見られます。特に、カメムシ類、フタスジヒメハムシなどは、着莢期・莢肥大期に莢を吸汁・食害して被害が大きくなるため、定期的な薬剤防除を徹底しましょう。



- ② ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺数は一部の地域で増加しています。食害を受けて白く見える葉（白変葉）は早めに除去し、薬剤防除を実施しましょう。



上記の「薬剤防除」における防除薬剤については、必ず「丹波篠山黒大豆栽培こよみ」で確認してください。

【参考：気象データ※丹波篠山市消防本部気象データ参照】

